北朝鮮の強制収容所をなくすアクションの会「NO FENCE」

会報 かいほうノーフェンス

NO FENCE

誇りある人間として、歴史に禍根を残さないために、囲いの中に閉じ込められ、いのちを冒瀆されている人たちを放置しない。

vol. 12

2011年5月

(NO FENCE IN NORTH KOREA)
NO FENCE
E-mail: nf-staff@netlive.ne.jp
〒102-0093 千代田区平河町 1-5-7 ー203 TEL&FAX 03 - 3262 - 7473 http://nofence.netlive.ne.jp 【郵便振替口座】 NO FENCE／00180-1-707147

★ 東北沖大震災に被災された方々、ならびに原発事故による被害に遭われた方々の生活の安定が、一刻も早く訪れますよう心から願い、共に努力して参ります。

▶ INDEX ◀

● NO FENCE 最近の活動 …… 2
● 北朝鮮近況・脱北者ドキュメンタリー映画「ソウルシスターズ」ほか‥ 3
● 証言/「収容所解体作業に参加した」 特集 ・李 相峰 4
● 訪韓報告 …… 小川晴久 7
● 収容所をなくすために …… 荻野さつき 8
● 「女性収監者は…」北朝鮮人権記録保存所調査結果 … 8
● 北朝鮮に自由を！ …… 李 恩元 9
● 核物質・考（「10万年後の安全」ほか）…… 小沢木理 10

北朝鮮は大量処刑と餓死の国

国名に付けた

民主主義はもぬけの殻

北朝鮮耀徳収容所でアヘン栽培拡大

米FOXテレビは5月10日北朝鮮が外貨獲得を目的として、アヘン生産を大幅に拡大していると報じた。人権団体アムネスティ・インターナショナルが5月3日に公開した北朝鮮・咸鏡南道の耀徳政治犯収容所の航空写真を専門家が分析した結果、収容所周辺でのケシの栽培面積が10年前の2001年に比べ約15倍の 13万平方メートルに増えていることが判明した。

（朝鮮日報11.5.12記事から転載）

<Photo/Copyright (c) 2010 The Chosun Ilbo & Chosunonline.com>

＜2011 年＞

■2 月 14 日・15 日

上十条駅頭にて、朝鮮学校生徒に漫画（後継者正恩描いた）とイラスト集（金ヘスクさんらの描いた）を、共に韓国の市民団体から譲っていただき、配布。各 100 冊。

■4 月 23 日（土）

第三回総会／於：早稲田奉仕園

◎砂川昌順共同代表あいさつ
2010 年度活動報告・会計報告、活動方針案発表

◎会費の改定
「学生会員」がなくなり「賛助会員」と名称を改定。
他は従来通り。

◎新世話人推薦、委任。（下記 50 音順）
石田英樹さん（新社会人）
李　恩元さん（大学院生）
荻原さつきさん（札幌・司会者）
渡邊裕馬さん（大学院生）
（木原和子さん、留任）

◎玉川裕二さんは、会の発足時から協力いただいており、世話人から常任世話人に委任。

◎意見交換会
参加者ほぼ全員が、各自の思いや積極的提案をされる。

★ **証言講演会**　**『私は収容所解体に参加しました』**
お話：李　相峰さん（証言内容→本紙 4 頁～6 頁）

▶▶NO FENCE の三大課題に、財政基盤の充足、活動案の実践力、組織体制の強化が挙げられるが、その三つ目の組織体制に、新緑の若葉のようなエネルギッシュ溢れる方々が加わっていただけたことは、当会にとって大きな力となることは間違いない。
感謝し期待したい。

The latest news

2011年 3~5月

壁より高くスクラムを組む人たちが徐々に膨れていって、北の民に〝カギ〟を渡したい！

北朝鮮・近況

●対北朝鮮制裁報告書の公開、中国反対で延期　国連安保理

（2011年5月18日　asahi.comより抜粋）

国連安全保障理事会は17日、対北朝鮮制裁決議の履行状況を監視する専門家パネルの報告書の公開について、先送りを決めた。

報告書は、13日に専門家パネルが安保理に提出。北朝鮮とイランが国連決議に違反し、弾道ミサイル関連技術を定期的に交換している疑いを指摘。北朝鮮からの移転は「近隣の第三国経由」とし、中国を経由していることを示唆していた。

安保理関係者は「中国は北朝鮮の不正行為に加担していると見られるのを警戒し、猛反発している。文言を修正しない限り、公開は困難だろう」と話した。

●北朝鮮の強制収容所、厳しい実態が明らかに

（2011年4月27日　YONHAP NEWSより）

北朝鮮には、**政治犯収容所以外にも少なくとも480か所の強制収容所がある**ことが明らかになった。韓国の社団法人・北朝鮮人権情報センターの北朝鮮人権記録保存所は27日、北朝鮮で拘束されていた経験のある50人に対し行った調査結果を発表した。

調査結果によると、国家安全保衛部の収容所では収監者を廊下に拘束しなければならないほど、収監者であふれているという。2001年に同収容所に拘束されていた北朝鮮脱出住民（脱北者）は「その年だけで5000人が新しく収監され、廊下から外まで女性がぎっしりと座っていた」と証言した。

一般犯罪者を収容する教化所は**8か所以上**が存在することが分かった。北朝鮮は公式には教化所は3か所だけと主張している。中国から強制的に送還される脱北者と女性収監者が急増し、教化所を新設したとみられる。北朝鮮人権記録保存所はこうした内容を盛り込んだ報告書を5月にまとめ、政治犯収容所の実態を明らかにするセミナーを開催する予定だ。

●北朝鮮が民主化運動を警戒…ＵＳＢまで管理

（2011年4月2日　中央日報より）

北朝鮮が北アフリカと中東地域に広がっている民主化運動の上陸を遮断するため、携帯電話やコンピューターなどに対する規制措置を強化したことが把握された。（中略）

北朝鮮は特に、エジプトのＭ（携帯電話などモバイル機器）革命を率いた携帯電話を規制するため取り締まりを強化している。携帯電話の使用は国家安全保衛部（韓国の国家情報院に相当）の許可を受けなければならず、海外から購入した機器の北朝鮮内搬入と使用は厳格に制限されているという。

●平壌も深夜だけ電気供給…停電が多発」

（2011年05月16日　Daily NKより）　消息筋によると、

南浦は特に電気事情が悪い。昼間はほとんど供給が行われないという。「まったく電気が来ない日が多い。10日間のうち2日しか電気は来ないのだが、それも2時間だけだ」という。

●自分犠牲にする北朝鮮医師

（2011年5月11日 共同通信社「地球人間模様＠コリア」より抜粋）

北朝鮮ではエックス線のフィルムがない。それで医師が、後で自分が病気になることを分かっているのに、放射線を受けながら自分を犠牲にし透視をしている。

●北の公開処刑、昨年６０人超　世襲期で厳罰化

（2011年5月14日 産経新聞より抜粋）　アムネスティ・インターナショナルの報告によると、

昨年公開処刑されたのは、知人の脱北者に北朝鮮の生活に関する機密を伝えた疑いをかけられた軍需労働者など６０人以上。

北朝鮮では６カ所の収容所に千人単位の住民を収容。裁判などの法定手続きを経ることもなく拘束し、過酷な強制労働を強いたうえ、わずかな違反行為を理由に公開処刑したり拷問したりしているという。

昨年６月には、金容三・前鉄道相が金総書記の列車の運行予定を漏洩したスパイ容疑で、文一峰・元財政相がデノミネーション（貨幣単位の変更）失敗の責任を問われ、それぞれ処刑されたとされている。

●対北ビラと一ドル紙幣二千枚を散布（2011.4.15）

国民行動本部所属自由風船団と愛国機動団のメンバー

ビラにはエジプトのムバラク前大統領、リビアのカダフィ大佐、金正日総書記の三人の顔が描かれ、「親子世襲は必ず失敗する。人民よ、六十年にわたる世襲独裁打倒に向けて立ち上がろう」と書かれてあった。

●米人権団体、北朝鮮批判のビラ二十万枚散布（2011.4.29）

一ドル紙幣千枚、ラジオ、DVDなどのほか、ビラには、リビア事態など中東の民主化運動を伝える内容が盛り込まれている。

脱北者ドキュメンタリー映画『ソウルシスターズ（Seoul Sisters）』

○「北朝鮮問題のポイントは金正日政権…危機を知らせる必要」

14歳のカナダ少年映画監督 マックス・ジョーンズは、今年末に完成予定の脱北者ドキュメンタリー映画『ソウルシスターズ』の制作のために、中国とソウルで一ヶ月間の現場インタビューを行っている。そのインタビュー記事から抜粋する。　（2011-03-31　デイリーNKより）

『マックス・ジョーンズ監督は、「人々が北朝鮮の危機をもっと知ることを願い、より多くの関心を持つようになることを願う。なぜなら、韓国やカナダで道で私と同じ年の子に脱北者が何なのか訪ねても、半分はおそらく分からないだろう。彼らは北朝鮮で何が起こっているかを知らずにいる。そして、何の情報も持っていないのだ。ハナ院出身者以外でこの危機について知り、興味を持つ人に一人も会うことが出来なかった。友人たちは誰もこの問題に関心は無い。しかし、彼らが変化を作る人々ではないだろうか。残念だが、長い間人々はこの問題を知りたいとも思っていなかった。」と話す。さらに「各国が関与しなければならず、また行動を取るべきだと言いたい。韓国だけでなく、米国、日本などが何か行動を取る必要があると考える。外国からの米支援が行われる際に、モニタリングを行う人員がいないのは問題だ。行動を取らなければならない人はとても多い。UNHCRも中国に物申さなければならない。各国政府は互いに協力し問題解決を図らなければならない。勿論、北朝鮮がドアを開けなければならない。」と語った。』

《証言／収容所解体作業》　NO　FENCE 第三回総会 講演会にて

私が参加した収容所解体作業

特集

リ・サンボン
お話：李 相峰さん

私は1960年代の16歳の高校一年の時向こうに行きました。

ま、好んで行ったというより騙されて親に連れられて行きました。それから、45年目に日本に来ました。2007年でしたから、日本に来てあしかけ満4年です。

政治犯収容所の問題に関するイベントに参加するのは本当に始めてのことです。
私が北朝鮮のどこに住んでいたかは聞かないで下さい。国境の豆満江の傍です。私の家から500メートルくらい歩くと豆満江です。

45年前を考えてみると、まー本当に辛いこともあったけど、思い出もありました。高校を卒業して、帰国者だったので大学には行けず、炭坑に入って22年間炭坑の仕事をしました。採炭工をやったのが4年くらい、22歳から25歳迄やりました。

次々とボタにつぶされて死んでいくもので、こりゃー危ないなと思って、日本製のセイコーの腕時計を労働党員にワイロにし、どうにかこうにか坑外に出て旋盤工として働く工務課に入りました。

それから88年に目が遠くなって、旋盤するにも間違った製品が出るもので、そこ（工務課）を辞めて炭坑から出て、それからあっちこっち安全部の「踏査管理所」の仕事に就きました。ここは金日成の革命史跡地の現地に行って地元の人を革命化させる、そういうところです。

当時社会安全部の踏査管理所は朝鮮に4カ所、普天堡(ポチョンボ)、平壌に本部、雄基(ウンギ)、会寧(フェリョン)にあった。日本から帰った帰国者がこういう仕事を4年間やったのは珍しいことだと思います。

なぜそういう職に就けたのかというと、日本にいる兄から送ってもらった中古車を安全部長にワイロとして渡したからです。目的は安全部の制服を着たかったのです。帰国者が人並みの待遇を受けたいためにそういうことをやったんです。
兄さんが新車ではないが中古を二台送ってくれた。一台は弟にあげて、一台は安全部長にあげたのです。それで入れてくれたのです。「あんたは帰国者だから安全員にはなれない。その代わり倉庫の、牛の肉とか豚の肉とか、制服、靴、そういうのを管理する職をアンタに任せるから」と言われ、だから私はその仕事を変えたのです。だからあれこれ全国の安全員とか保衛部員、軍の七総局(建設部隊)の人と知り合うわけです。帰国者だから少し安心して事実を言ってくれる、それで情報が私の耳に入ったのです。

収容所に関して

これから収容所に関して話したいです。
この収容所にいて私が見たこと、聞いたこと、隠しもせず付け足しもせずそのまま言いたいです。

1990年3月です。今から21年前、その時私は炭坑でなく製紙工場で仕事をしていました。
道(日本の県に相当する行政単位)の行政委員会から、何々工場では党員を何人を出せと選抜されたのです。

その時、私の工場では8人が労働突撃隊に選ばれて、私はその中に入ったのです。「お前は帰国者だけど、安全部の信任を得て一応4年間ここにいたから入れ」と。
労働突撃隊に配属されたら、そこは軍隊式で、大隊長、中隊長、小隊長となっています。
清津(チョンジン)に集結しました。2400人くらい集まりました。一級企業所、特級企業所からは数百人ずつ来ているので、咸鏡北道（ハムギョンプクト）から集まったのが2400人くらいだった。だから全国的には何万人にもなるんです。

（テープ起こし小沢・監修宋允復）

別荘を繋ぐ道の工事

「これから鏡城(キョンソン)に行く」というのです。清津から鏡城は近い。
この鏡城は昔朱乙(チュウル)と言ったのです。温泉の質が良くて金日成、金正日の別荘のあるところです。偉い幹部たちが温泉に行くのです。「特閣(金日成の別荘)建設に行くから忠誠心を発揮しろ、6か月で交代させる」というのです。

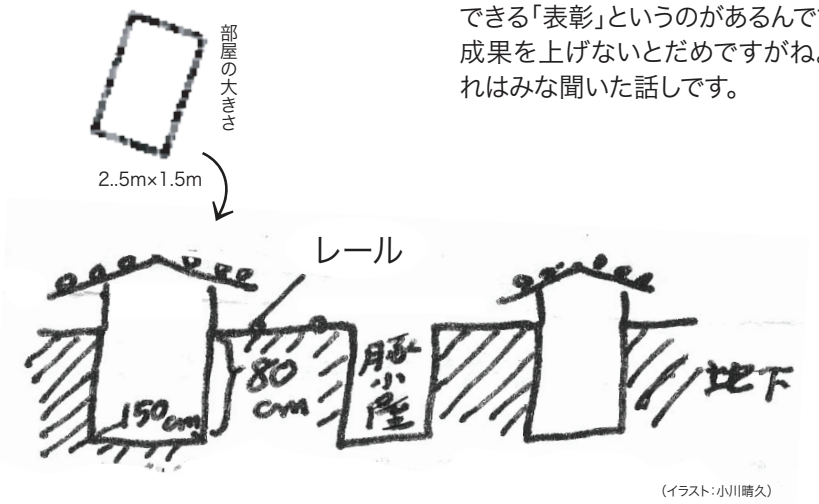
鏡城駅に降りて、“勝利58”という北朝鮮製のトラックで山に向かって2時間20分ほど行ったところの冠帽峰(クァンモボン)（標高2540m）の下に収容所がありました。そこまでの道は悪くガタガタでしたが、行ったところには同じ形をした立派な家がたくさんあってそこに配置されました。後でわかったのは、そこは収容所を管理する保衛部の人たちの住宅でした。
家の前に葡萄の木やサガリ(リンゴとナシを掛け合わせた果物)の木もあった。オンドルの8畳間がふたつと台所があり、一軒に8人配置された。
「羅津(ラジン)部隊はどこそこ」「清津部隊はどこそこ」「会寧(フェリョン)部隊はどこそこ」と軍隊式に配置されました。
そこには保衛部の子供たちの学校が残っていました。

建物の解体

次の日の朝食（トウモロコシ）を食べて、何千人ずつかを集結させ、それぞれ道路工事や家の解体等割り振られました。道路工事には7割の人が配置させられました。その道路工事というのは普通の道路ではないんです。軍事道路です。 三池淵（サムジヨン）から冠帽峰、朱乙までを連結する。昔はこの道が無かったのです。
白頭山の下の三池淵には金日成、金正日の別荘があったのですが、そこと冠帽峰と朱乙(チュウル)にある別荘と別荘を繋ぐ道の工事に駆り出されました。
私が動員されたのは建物の解体でしたが、そこが11号管理所(収容所)だったんです。そこにはおよそ38,000人いたと工事中に監視でついている保衛部の人から聞きました。

これが人間の住まい

私たちは囚人の家や豚小屋、レンガ工場、酒工場などいろんな建物を解体させられ、およそ10日かかりました。入ってみるとその区域はものすごく大きくてビックリしました。
山の案外高いところに囚人の家がある。ここは豚小屋なんです。ここにはトロッコのレールがあって、ここがまた囚人の家になっていて、これが豚小屋、人間の家、豚小屋、人間の家、豚小屋と交互に地面に掘ってある、こういうのが一列ずっーとハーモニカのように並んでいる。上から見たら長方形になっている。これがおよそ2.5m×1.5m掘ってあって、そこにひとりの人間が入る。深さは地面からおよそ80cmくらい。そして地面から上に50cmくらいの高さに屋根がかぶせてあります。木材の柱があって、屋根は木を削った30cm～50cmの板を瓦にしている。そしてその上から風で飛ばないように石が置いてあります。地面を掘った中の側面は板張りです。



（イラスト：小川晴久）

一番下は石灰石のような細かいものを敷いてその上に砂を載せてある。その上にかますが敷いてある。
ここに横になって暮らすのですが、隣同士が互いに話しを出来ないように連結していないんです。ここからおよそ2メートル離れた所に、豚小屋がありまたこういう家がある。隣同士でもお互いにコソコソ話しが出来なくしてあるんです。こういう家がだいたい20個くらいありました。

昔、僻地に送られた人たちが芋畑にしていた土地だから土が肥えているわけです。
ひとりの人が一匹の豚を担当するようになっている。豚が死んだらえらいことになる。10ヶ月のうちに100キロに育てるのが課題になっている。保衛部の人間がその時のことをああだったこうだったと自慢話のように言うわけです。

こういう話しをすることになるのだったらもっと詳しい話しを聞いておいたのに。しかしその時はもう聞くのも嫌だと思っていた。
ただ保衛部の人が何十人を前にしてそういう話をする、秘密ではなかった。

豚小屋の外に出たら豚の餌を運ぶトロッコのレールがあって、その先に大きな釜がある。だからお互いに1m50cmくらいの間隔で豚と一緒に住んでいたということです。

私がいたところは罪を犯した本人の部落でした。部落はふたつあって、罪を犯した本人がいる部落とその家族の部落とがあるんです。豚を立派に育てると、部落の自分の妻と会って三日間いっしょに寝ることができる「表彰」というのがあるんです。成果を上げないとだめですがね。これはみな聞いた話しです。

この建物を見てびっくりしたんです。

屋根がこれくらいですよ。これが人間が住む屋根かと思ったのです。しかし皆口には出さなかった。これを剝がして燃やして、それを埋めるんです。
それに鉄条網があったんですよ。おおよそ3メートルくらいの。そして通り道があって、ここに落とし穴があるの。それを埋める作業もやりました。
15日間これに動員されました。
そのあとに道路工事をさせられました。

小さな鋤(ホミ)

私が一番涙が出たのは、小さなホミ*1を見たときです。子供たちが働くレンガ工場があるのです、それから農場も。その農場の作業室に入ると道具が三段にいくつも並べて掛けてあるのです。そこに草刈り用のホミが掛けてあったのですが、大人用には柄がおよそ長さ80センチメートルのものが上に掛けてあり、小さいのは30センチくらいのものが下に掛けてありました。保衛部の人が言うには、5歳から7歳迄のこどもにこれを使わせていたと言いました。
このような小さいホミが掛けてあり、(子供たちも)それでトウモロコシやジャガ芋の草刈りをする訳です。
1日12時間も。

そしてレンガ工場では、レンガを焼く丸い釜があって、大人用と子供用とがあったのです。
ここに赤土を入れて叩いて炉に入れて焼いてレンガを作る。
25cm×15cmくらいだった。
こんなに小さな子供たちにまでさせるのかと、それを知ってとても涙が出た。
他の中隊は酒を造る工場だとか、タンスを作る工場とかの解体をやった。私はそこには行っていない。
安全部にいたころに、他の収容所の話も聞いていました。
また、収容所の管理にあたっていた保衛員の中で罪を犯して除隊処分にされ、炭鉱に送り込まれた人たちがいて、その話を聞いていた。囚人の女性を妊娠させたり、マツタケを売った金を横領したりして炭鉱に送り込まれて、酒を飲むと「ああ、もう少し我慢すればよかった」と愚痴をこぼしていた。

11号管理所(鏡城)跡

金日成、金正日の別荘を作るのに都合が悪いので、11号鏡城にいた38000人の囚人を16号化城(ファソン)と22号会寧(フェリョン)に分散収容してから、党員を送り込んで解体作業をさせたわけです。11号管理所の場所は秘密にしたいから地名は明かさないで番号で言うのです。

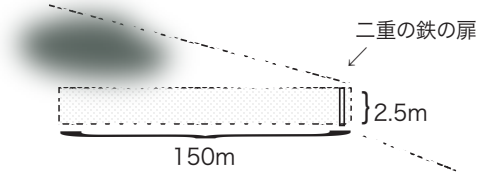
跡形もなくして、それから道路工事をして三池淵(サムジヨン)から冠帽峰(クァンモボン)、鏡城までつないだ。
このAクラスの政治犯本人の刑期は15年となっているが、実際は無期で釈放なんてないのです。出られたのは金日成や金正日の命令のあった人で、78年だったか、飛行士の李活(リファル)という人が出された。日帝時代に飛行士をやっていて「日帝の手先」ということで28歳の時に入れられた。ところが、後に金正日が飛行士を養成するための専門のベテランがいないので、「李活はどこにいった?出せ」となった。出たときは74歳で当時テレビに出て、「金正日様のお蔭で第二の人生を歩むことができた、これから忠誠を尽くします」と。28歳の時から入れられて…、だから15年の刑期なんてあるわけ無いんです。

解体が済んだ後、今度はそこに植樹をさせられました。証拠隠滅を図るため、跡形も無くさせるために、苗木を植樹させられたのです。2人1組になって一日ひとり300本がノルマで植えさせる。高さ60㎝ほどの杉。300本植えるととても腰が痛くなる。一人が掘って、もう一人が植える。
30㎝くらい土を掘ると人骨がたくさん出てくるの。中には黄色い脂のついた骨もあった。最初はドキッとしたけど、すぐ慣れてしまった。
植樹には200人くらいが動員させられ、2日間やりました。それが終わったら、道路工事に動員された。その外に人口の池を作らされた。
金日成が釣りが好きなので、深さ1.5mの人口池を作らされた。3月で水は冷たい。30分交替で作業した。娘なんか寒くって泣いていました。私は40代初めで分隊長だったので案外楽だった。7人の兵隊をつれて、その中では親玉だから「お前が入れ」とやらせていた。
収容所の解体は、労働党員の突撃隊がやったけど、道路工事や池作りは一般の人や社労青(サロチョン:社会主義労働青年同盟)の若者たちがやった。池を作る作業には女性が半分くらい加わっていた、冷たい山の水に入る作業だが。
つまり最初に解体作業をやり、それから道路工事、その次に魚釣りの池を作ったのです。

ほんとうは1人6カ月務めることになっていたけど、私は大隊長に1万円、中隊長と小隊長に5千円ずつ賄賂を渡して4カ月で出してもらった。それは日本から送ってもらったお金をワイロに使って辞めたのです。

10号対象

最後に一つ。解体作業のときに、山の中腹に洞窟のようなものが設えてあった。入口の高さは2.5m、幅は3mほど、鉄板の扉の中に入ると2～3m先に鉄格子があって、その中に入ると洞窟の幅は9mくらい、奥行きは150mくらいあったと思う。



その洞窟については保衛部の人も言わない。「お前たちが知る必要はない」と。あとで他の作業班の人に聞いたら、有事の際に囚人を押し込めて爆破して殺すためのトンネルで、それがいくつもあったという話だった。私が直接見たのはここ一カ所だけだったけど。中に入ると水のしずくが落ちてきてドロドロしていた。二重の鉄の扉で、こんな大きな錆びた鉄の錠前がかけられて中に入れなくなっている。
若い人が「これは何ですか」と聞いても保衛員は「知らんでよい」と言って答えなかった。
それで分かったのは人間の屠殺場だということです。
これを聞いたとき、私は恐ろしくてぞっとしました。有事のとき、囚人を全部入れて爆破して殺すための洞穴なのです。囚人が社会に出て暴露したら困るでしょう?
私が言いたいのは、他の収容所に今でもこういうところがある筈ですよ。
私が北朝鮮にいた当時安全員から聞いたのは、どこの地方でも『10号対象』というのがいるの。有事の際に殺す対象が各地域ごとに名簿になって用意されている。どこでどういう風に殺すというのが全部計画されているの。

私はこういう人たちを一日も早く救いたい。このノーフェンスという団体をもっと大きくして強い活動をして、彼らを救ってもらいたいんです。

---

*1【ホミ】ホミというのは草取りや、移植したりするときに使う朝鮮独特の農機具の1つで、柄が短いのでしゃがんで使用する。最近日本にも「捻り鍬」として出回るようになった。(朝鮮新報:地名考–故郷の自然と伝統文化 江原道–ホミ洗いより)

訪韓報告

NO FENCE 副代表　小川　晴久*

去る5月4日夜ソウルのカナダ大使館ホールで北韓人権市民連合[1]の尹玄理(ユン・ヒョン)事長（８２歳）がカナダ政府から人権賞を受賞したお祝いの会と市民連合の創立１５周年を祝う会があり、招かれて(宿泊費持ち、航空運賃は自弁で)行ってきました。併せてNOFENCEの仕事もしてきましたので、それを中心にご報告します。

1）今年の北朝鮮人権・難民国際会議[2](昨年はカナダのトロント)は１１月頃スイスのジュネーブで開かれる見通し。昨年１１月に訪問した際にはオランダと聞いていたが、オランダ政府から援助が降りないことがわかったので、ヒューマンライツ・ウォッチの協力を得てジュネーブに代わったとのこと。ジュネーブの各国大使が参加できる時期を選んで時期は決まるという。来年はブラジル開催。

2）姜哲煥(カンチョルファン)氏を勤務先の朝鮮日報社に訪ね、NO　FENCEの会計が預かっていたラジオ・プロジェクト[3]の寄付２１０００円を手渡した。先日の第三回総会の会計報告参照のこと。昨年5月にNO　FENCEが彼を招いた際、ラジオ・プロジェクトの話があった。非会員の３人の方から、それへのカンパがNO　FENCEの口座に寄せられていたので、1年遅れで彼に手渡した。その際、今回のNO　FENCEの第三回総会報告資料を渡し、李相峰(リ・サンボン)氏の証言内容を伝え、併せて金ヘスクさんの言う２１号２３号２４号管理所の位置探しを依頼した。姜氏は北韓政治犯収容所解体運動本部[4]の理事でもあるが、3年前にできた北韓戦略センター[5]の代表であるという。脱北したエリートたちがここに集まっているというので、何かわかることを期待したい。

3）北韓政治犯収容所解体運動本部の事務所に金泰振代表を訪問。NO　FENCEの今回の総会報告資料を渡し、李相峰氏の証言内容を伝え、２１号２３号２４号管理所の所在探しも依頼した。彼は１１号管理所撤去時に子供用の農機具ホミ(草刈鎌)が残っていたという所に疑問を呈し、金ヘスクさんの証言も彼女に改めて問いただしたいと答えた。事務所では2人の人が働いていた。

4）金ヘスクさんの本『涙で画いた収容所』(時代精神社出版、２０１１年4月5日刊行，１９５頁）が刊行されていたので購入する。彼女はお婆ちゃんの元で育てられていたため、両親一家が収容された５年後の１３歳で収容されるが、収容所で母親と再会する。収容所での劣悪な食事では子供たちを生かすことができないので、しょっちゅう山に入り草や根を探し、自分はいつも後回しにして、４３歳の若さでなくなった（2年後に）母親を、先ず記しているが、とても貴重な記録である。収容所体験者の女性の手記は珍しい。一日も早く訳されねばならない。

“収容所での半生は、大切なものを私から一切奪った。両親と家族、そして主人と子供たち・・・・、私に残っているのは心の中の傷ばかりだ。”

“収容所の話をくり返し言うことは、深い傷を抉り出すような痛みを伴うが、私が経験したことを(全世界の皆さんに)知らせなければならないという一念でペンを取った。”（著者前書きより）

カナダ政府の人権賞はJohn　Diefenbaker人権・自由賞と言うもので、今年から設けられ、その第一回が韓国の北朝鮮人権問題に取り組むNGOの代表に与えられたことの意義は大きい。John　Diefenbaker（１８９５～１９７９）は弁護士で、カナダの第１３代の首相（在位１９５７～１９６３）。

第２部の市民連合創立１５周年を祝う会では7・8人の人に感謝牌が贈られたが、季刊誌”**生命と人権**”刊行の関係からか、私にまで贈られたので、びっくりした。
第一回から国際会議のポスターのデザインを担当してこられたという朝鮮日報社の美術部の方、ポーランド人で市民連合の国際キャンペーン部長の仕事をしてこられたヨアンナ・ホサニアックさん、脱北者の子供たちの教育に当ってこられた先生などなど。

5月4日に開かれたわけは、１９９６年5月4日に北韓人権市民連合は創立され、その直後創立者の３人の方（尹玄、金尚憲(キム・サンフォン)、金英子の三氏）が来日され、東大の山上会館で２年前に出発していた日本の「北朝鮮帰国者の生命と人権を守る会」と共同して活動する協定を交わし(5月１０日)、その秋に季刊誌”**生命と人権**”の創刊号が共同で刊行された経緯があります。

---

[1]**北韓人権市民連合**：１９９６年5月4日設立、尹玄さんが代表、金英子さんが事務局長。

[2]**北朝鮮人権・難民国際会議**：１９９９年１２月に第一回。北韓人権市民連合がアメリカ議会の下にあるNED(National Endowment for Democracy)の援助を得て、昨年まで１０回開催。ソウル(3回)以外では日本（第3回、2002年、東京）、チェコ(第4回、2003年プラハ)、ポーランド(第5回、2004年、ワルシャワ)、ノルウェー（第7回、2006年、ベルゲン）、英国、オーストラリア、カナダ(第１０回、２０１０年、トロント)で開催。

[3]**ラジオ・プロジェクト**：北朝鮮に安い携帯ラジオを密かに入れる運動。

[4]**北韓政治犯収容所解体運動本部**：２００３年6月ソウルに設立、現代表は金泰振(キム・テジン)氏。ヨドック収容所体験者。社団法人申請時に北韓民主化運動本部と改称させられたが、今は元の名で活動。

[5]**北韓戦略センター**：２００８年設立。脱北者エリートが集まっている。

*
東大名誉教授（東アジア思想史）

「強制収容所をなくす為に」

NO FENCE世話人 荻野さつき

私はどうしてこんなに北朝鮮の人々の事が気になるのか・・・
きっかけは多分、遠い昔自宅にあった北朝鮮に関する何らかの本を読んだのだと思います。
いまほど北朝鮮の情報が日本に入ってくる事もないまま、気になりながらも月日が流れて行きました。
今では、TVや本、インターネットなどからも沢山の情報を知る事ができます。
日本人として、拉致問題は大きな事ですが、それと同じように強制収容所についても多くの方々に知って欲しいどの時代にもあってはならない残酷な場所なのです。
人間を人間として扱わないあんなにも酷い所を、しかもこんな近くで今、起こっているのになぜ知っている人が少ないのか残念で哀しくてなりません。
私は、昨年の６月、待ちに待っていた映画「クロッシング」を観ました。
観終った後は、もう言葉がありませんでした。
やや暫くの間は、雨を見ては泣き、夜空に光る月を見ては泣きと、自分の感情をコントロールするのが大変でした。
時差のない北朝鮮で、彼らは同じ空をどんな気持ちで見ているのでしょうか・・・
この映画をきっかけに、私はノーフェンスの入会を決めました。
講演会はインターネットで見る事ができますし、会報は入会前のものも送って下さいましたので、こんなに以前から色々な活動をされていたんだなぁと、早く行動を起こさなかった自分に強制収容所の存在を知らない人達の事は言えないなとも思っています。
そんな反省から、現在周りの友人に「クロッシング」のDVDを観てもらっていますが、私の強制収容所の人達への思いと、何も知らない友人達のスタートラインがあまりにも違うので、温度差を感じる事はしょうがない事だと思っています。
昨秋、念願だったJSA軍事境界線に行って来ましたが、北朝鮮は本当に近い近い所で、哀しい程・・・遠い所でした。
今、日本は大変な時をむかえています。
まずは日本じゃないのか！と考えるのも理解ができます。
でも、同じ人間として同じように平和に安心して暮らせる時が来ると信じ、微力ながら今も北朝鮮で苦しんでいる強制収容所の人々を救うお手伝いができればと思っています。　（本業：司会者）

「女性収監者は裸で調査を受け、性暴行や強制堕胎も」

「北の拘禁施設は少なくとも480ヶ所」

北朝鮮内の監獄、及び拘禁施設は、『拘留場』と『労働鍛練隊』が210ヶ所、『教化所』が23ヶ所、『教養所』が5ヶ所、『集結所』が27ヶ所、『政治犯収容所』が6ヶ所で、総計約480ヶ所に及ぶことが明らかになった。

北朝鮮人権情報センター傘下の北朝鮮人権記録保存所は、脱北者約1万3000人を調査。その結果が26日に発表されたが、資料によると拘禁施設に収監された住民たちは暴力や強制労働に苦しめられているという。女性の場合は、性的虐待を受ける場合もあり、深刻な人権弾圧が行われているという。

北朝鮮人権記録保存所は、「北朝鮮は拘禁施設を通じた住民統制の名目で、裁判なしに収監し強制労働を課している。拘禁施設では、無報酬の強制労働をさせられている反面、犯罪者の量刑も賄賂に左右されるなど、拝金主義が横行しているようだ」と指摘した。

穏城郡（オンソングン）の保衛部に受容された経験のある脱北者は「調査時には、保衛員が直接来て恫喝され、暴力によって足の爪が抜かれた」と暴力実態を明らかにしている。

監手続き時の身体検査では「女性は裸にされ、体のどこかに金を隠していないのか性器の中まで調べられる」と性的虐待が行われていることを証言。

1997年に吉州の『集結所』に収監されたある脱北者も「妊娠4ヶ月の23才の女性が強制労働させられ、その最中に流産してしまった」と言う。 1994年に平壌集結所に収監された別の脱北者は「賄い婦の女性が集結所の指導員に性暴行され、二度の強制堕胎を強いられた」と告発した。

施設内の環境は、非常に劣悪だとする。穏城拘留所にいた脱北者は「養豚場に拘留場が作られた。便所は部屋の中にあるので大勢が疫病にかかる。しかし、薬もなくまともな医療は施されない。施設は狭く、廊下までぎっしり人で埋まる」と証言した。

保衛部に取り調べを受けたことがある脱北者によると「行政府長に10万ウォンの賄賂を渡したら、予審が終わらずに出ることができた」と話し、北朝鮮の司法にまで腐敗が蔓延しているということを告発した。

北朝鮮の『拘留場』は、犯罪容疑者に対する調査のために一時的に収監させる韓国や日本の警察署留置場にあたる。『集結所』は国境地帯の脱北者に対して強制労働を課す一種の臨時収容施設だ。『教養所』は、軽犯罪者を対象に集団的な労働教養をさせる所で正確な名称は『労働教養所』という。

刑が確定された者を拘禁して肉体労働と思想教育をする『教化所』と住民たちの逸脱行為に対する統制強化のための『労働鍛練隊(未確定者含む)』、そして一般拘禁施設とは性格と役割が異なる『政治犯管理所』がある。

最悪の人権弾圧が行われている北朝鮮政治犯収容所は大きく二つに分類される。『完全統制区域』は、一度収監されれば二度と出所できない終身収容所だ。一定期間の強制労働を終え、自らの受刑期間が満了すれば釈放される『革命化区域』もある。

1950年代後半から運営され始めた政治犯収容所は、現在は国家保衛部で運営されており、14号介川(ケチョン)、15号燿徳（ヨドク）、16号化城　(ファソン)、22号会寧（フェリョン）、25号洙城(スソン)などの収容所が存在する。そして、人民保安省が運営する18号北倉収容所など6ヶ所も存在し、約20万人が受容されていることが明らかになっている。 【2011年4月27日　デイリーNKより】

北朝鮮に自由を！

NO FENCE世話人　李 恩元（Yi Eun-won）

「我々の願いは統一、夢にも願いは統一」
これは私が小学生だった頃、学校でよく歌った歌の歌詞の一部分である。毎年「統一」をテーマにしてポースターを作り、作文を書いた。韓国政府の教育方針により、徹底的に「統一教育」を受けてきた私は、北朝鮮に対し、親近感まで持っていた。そんな私が北朝鮮問題の深刻性に気付いたのは、初めて強制収容所の存在を知ったときからである。

それは日本に来て3年目の時で、「旧ソ連とナチス・ドイツにおける強制収容所」についての授業中、「北朝鮮には現在もこのような恐ろしい施設が存在している」と聞いた。私は韓国人として、韓国で何年も暮らしてきたにもかかわらず、北朝鮮に収容所があることはまったく知らなかった。

私は、自分も知らないうちに、「大海を知らない井の中の蛙」みたいに目に見えてくる「光景」、耳に聞こえてくる「話」だけを事実であり真実であると信じて、現実に安住してきたのであろう。この衝撃的な出来事によって私は、北朝鮮における強制収容所の存在という（自分にとっての）「新しい」情報を真実として受け入れることで、非常に混乱していた。言葉では到底形容できない残酷で残忍な形で、人権を抹殺する行為が恣行されている北朝鮮の悲しい現実、そして何もできない自分、無知な自分が悔しくて悔しくて仕方がなかった。

その時から私は北朝鮮について調べ始めた。北朝鮮における人権蹂躙の実態や強制収容所、チュチェ思想、拉致問題、核問題、在日朝鮮人等々、私の記憶の中の北朝鮮と現実の北朝鮮はあまりにも違っていたため、「本当」の北朝鮮を知ることに全力を尽くした。しかし、北朝鮮の閉鎖性は、知れば知るほど謎だけを増やした。ただ、自分の中で一つ確信できるのは、民主化だけがあらゆる北朝鮮問題の解決策であるということであった。

朝鮮民主主義人民共和国という名称に堂々と表記されている「民主主義」は、一体何を意味しているのか。
まず、北朝鮮が非民主的であることは疑いの余地がない。では、民主主義とは何であろう。一言で民主主義を定義することは難しいが、「市民の要求に対し、政府が政治的に公平に、つねに責任をもって答えること（ロバート・ダール*）」ではないかと思う。要するに、「市民」は政府に対して要求を形成し、表現する、政府はその要求に対する誠実に対応していくというメカニズムである。しかし、北朝鮮の「人民」には「市民」としての感覚がないかもしれない。すなわち、「市民」としての権利やそれを訴えるための行動を起こすことは、尚更期待できない。その上、北朝鮮のような「首領絶対主義」体制（≒全体主義体制）では、体制維持のため、国家や政党（もしくは特定人物）が人間（人民）より上に置かれているので、結果的に彼らの絶対思想であるチュチェ思想とも矛盾関係にあるとも言える。

矛盾だらけの北朝鮮体制にいつか訪れるのであろう民主化を一刻も早く起こすためには、強制収容所の廃絶は不可欠であり、その他の人権問題なども改善しなければならない。特に北朝鮮の強制収容所は、「市民的及び政治的権利に関する国際規約（通称B規約、 国連総会で1966年12月16日採択され、1976年3月23日発効された。北朝鮮は1981年9月14日加入している。）」に基づいて言うと、①生命に対する固有の権利（第6条）、②身体の自由（第9条）、③刑罰に関する条項（第7条、第10条）、④思想・良心及び宗教の自由（第18条）、⑤表現の自由（第19条）などの条項を正面から違反し、人間として享受すべき基本的権利を蹂躙する、人権侵害のあらゆる類型を網羅している。

このような北朝鮮の実状を知ってから私は、自分の残りの人生を北朝鮮問題の解決と平和のために費やしたいと思い、「北朝鮮における民主化の可能性を探る」研究をするために大学院進学を決めた。しかし、周りから「北朝鮮に関しては、情報もないし、研究も進んでないので、無理がある」とか、「関係もないことで時間を無駄にするな」と言われた。確かに、研究としては成果がないかもしれないし、「自分」とは直接的な関係もない。だからといって、手を拱いて傍観しているわけにはいかない。成果がないからといって意味のないことではない。抑圧されている人たちを助けることは、人間しかできないことで、同じ人間としての義務であり、使命でもある。私たち、一人一人が力を合わせていけば、いつかきっと北朝鮮の強制収容所が廃絶される日が、そして北朝鮮の人々が自由を勝ち取る日が、必ず来ると確信する。

（明治大学大学院生　政治学専攻）

---

*ロバート・ダール：民主主義の理論と実際を研究したアメリカ合衆国の政治学者。

止らない、止められない“核物質”

核物質・考

逃げられない

私は、住宅より自然の多い地域に住んでいる。しかし、食事時にはどこからともなく焼き魚や煮物の匂いもしてくる。数年前には法律で禁じられた自家焼却だが、それでも懲りずに燃すのだろう、未だに塩ビ系から出るダイオキシンを含んだ煙が閉め切った家の中まで入り込んでくる。サリンだのダイオキシンだの有害物質を含んだ空気を、「私は吸いたくない!」とどんなに思っても、空気は自在に広範囲にどこにでも流れていく。

福島原発事故直後の数日間はその成り行きに目が離せなかった。が、今はエンドレスに近いコントロール不能な状態にあり、一刻一刻の推移など気にしていられなくなっている。政府対応、東電の隠匿体質、そもそもは前政権にこそ責任が、といった批判は免れない。

しかし、本質的な問題はさらにその奥にある。今、生命体にとって被爆が一番心配で深刻だ。それだけでもお手上げしたくなる事態だ。どうやって被爆を避けるのか、何が汚染されていない飲食物か、どのくらい距離を置けば被爆から避けられる地域なのかに必死になるのは当然だ。だが、リスクの高低差はあるにせよ、残念ながら最終的には大気はどこまでも自由に流れていくし、海洋もひとつに繋がっていて、その影響下から完全には逃れられない。

これだけの科学者の総力を集めても、人間がコントロールできない“死”の生産物質。にも関わらず「想定外で、うまくいきませんでした」と言うだけで、いまだ地球上の生物の絶滅の危機を招く“原発”依存から目が覚めない。経済的豊かさも欲望も、いのちに優先されるものでないということを受入たくはない。

「いのちとどっち取りますか?」である。

膨大な人間のいのちや生態系を犠牲にし、かつ、放射線が放出され続けるのを止められないというのが放射能の実像である。

しかし、そういう放射性物質による被害とてこの原子力（核原料物質）が抱える問題の一側面でしかない。その元を辿れば、その本質がさらにもっとハッキリ見えて来る。

放射性物質の半減期と核のゴミ

原子力のもうひとつの大きな側面、それは人間が弄んだあとの残骸の処理である。

使ったら、使っただけゴミが出る。核のゴミは“死のゴミ”である。どこへ捨てるのか? “死のゴミ”だから捨てる所が無い。原発作るだけ作ったが、その後始末方法については、「分からない」という。車を作ったが、アクセルだけでブレーキが無い。しかもその処理方法も「知らん」（科学的には保証できない）と。

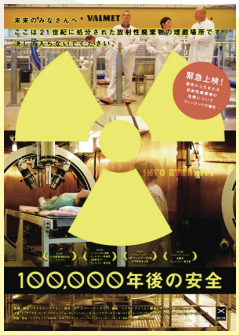
放射性物質の半減期が（完全に消えるのにはその二倍以上かかる）例えば、ざくっと言って、●ヨウ素131/**8**日くらい●セシウム134/**2**年●セシウム137/**30**年●プルトニウム239/**2万4千**年●ウラン235/**7**億年●ストロンチウム90/**29.1**年と言われている。

しかし、チェルノブイリ原発事故の後、20年以上続けられている土壌調査の研究チームが、セシウム137の半減期は30年といったペースでは減っておらず、同チームは、「**環境的半減期**」（セシウムの半量が周辺の環境から消失するまでの期間）を、**180〜320年**と算定している。

半減期の長短によって、その影響の差異はあるが、日本は世界３位の原発立国であり、地震大国である。日本のどこで大事故が起きても不思議は無い。その時、「○○からどれほど遠くへ逃れれば安全か」という話し自体交わされなくなるだろう。

今は俎上に乗っていないこの核のゴミの問題は、放射性物質による被爆の問題とセットで核を考えなければならない。起き得る大きな地殻変動は、原発施設だけでなくこの核のゴミの保管場所にも影響を及ぼす可能性があることを、改めて誰もがしっかり自覚する必要がある。

『100.000万年後の安全』



ここで、フィンランドで建設中の原発の放射性廃棄物処理場をテーマにしたドキュメンタリー映画『100,000年後の安全』（「10万年後の安全」09年制作）をぜひ紹介したい。

フィンランドは、世界で初めて核のゴミ永久地層処分場の建設を決定した。

現在、高レベル放射性廃棄物の最終処分場は日本を含めて世界中に一つもなく、それは今のところ中間貯蔵施設に蓄えられている。しかし施設は自然災害や人災の影響を受けやすいため、人間の生活環境から充分離れた大地の奥深い場所に、固い岩盤を掘削した地下500メートルの地層中に廃棄物を蓄えて最終的な安全性を確保する“地層処分”という方法が発案された。それはまるで仮想世界の要塞都市のような巨大システムの中で、廃棄物は人工バリアに入れられ10万年は隔離されるという。安全な状態になるまで10万年間かかると言われている。

『10万年後まで未来の人類の安全はいったいどう保証されるというのか?』この映画では、この施設の意味と、未来の地球の安全を問いかけている。言い換えれば、「10万年間絶対に開けてはいけない。開けたらおしまい!地球上の生命体が破壊される。」という10万年間死を脅かされ続ける原発の正体を突きつけられてる。こんな明確な結論は無い。政府は、科学者は、原子力（核）の実態を全てしっかり国民に伝える義務と責任がある。

寧辺の核施設、放射能汚染が深刻

一方、北朝鮮においても深刻な状態が続いている。朝鮮日報11.4.19記事によると、寧辺で働く科学者たちの実態が明らかになってきた。

80年代から平安北道寧辺の核施設に勤務し、核開発に携わった科学者の妻、キム・ヘスクさんの話しとして、「（夫は）皮膚がはがれて白い肉がむき出しとなり、歯も抜けて40代にして入れ歯になった。肝硬変もひどくなった」「寧辺には5メガワットの黒鉛減速型原子炉やプルトニウム（核兵器の原料）抽出のための再処理施設などが集まっており、放射能汚染は驚くべきレベルだろう」。

韓国の原子力専門家によると、「年間50ミリシーベルト以上の放射線を浴びていたはずだ」また、「使用済み核燃料棒の冷却プールの水や再処理を終えた燃料棒など高濃度の放射性廃棄物に、安全装備が不十分な状態で触れていた可能性がある」との説明だ。（一般人の年間被ばく許容値は約1ミリシーベルト）

北朝鮮の消息筋は「寧辺の科学者には脱毛や嘔吐（おうと）、めまいを訴えるケースが多いと聞いている」と話した。

寧辺では約200人の科学者を含め、およそ3000人が核施設に勤務しているという。

なりふり構わぬ北朝鮮の核開発

北朝鮮分析ブログによると、『2011年4月、オーリ・ハイノネン国際原子力機関(IAEA)元事務次長は、「独力で建設中の北朝鮮軽水炉の安全性の問題が深刻だ」と警告し、「孤立した北朝鮮が軽水炉を自国の力で製作する技術を得るのは非常に難しいので、既存の核施設より一層憂慮される」と主張した。

米戦略国際問題研究所国際安保担当専任研究員は、北朝鮮の寧辺核施設を放射能に汚染された崩れた古セメントの溜まり場だと言った。部品はさびて、ガラス窓は割れて、水と電気も数時間だけ提供されているとしながら、「アメリカなら強制的に施設を閉鎖するほど、汚染度が深刻だ」と言った。

去年、北朝鮮の核施設を訪れたアメリカの核専門家のジークフリード・ハッカー博士は、「北朝鮮が孤立した状態で、十分な経験もなく核を開発するのが、非常に心配だ」、と言っている。

防衛産業体と各国の政府機関を対象に情報を提供するイギリスの「ジェインス・インフォメーション・グループ(JIG)」は、「寧辺で核事故が発生したら、放射能で12万人が直接被害を受けて、1200万人が直・間接的な被害を受けるだろう。韓国と日本、中国にも直接的な被害が予想される」と推定した。

既に北朝鮮では、以前から核物質による大被害が見られている。北朝鮮の核施設が位置する寧辺地域では、結婚した女性たちが不妊に苦しんでおり、肛門または生殖器、そして耳や指がない奇形児を生むケースが多いというニュースが伝えられている。放射線や放射性物質に露出しているからだということである。北朝鮮には安全性が保障されていない核施設が数多くある。プルトニウム再処理施設の放射化学実験室、核燃料加工工場などもあり、隠された施設がどれほどあるか分からない。』とある。

まして、殺戮目的の核兵器の平和利用などと念じるなどは、人類の自滅行為そのものである。まさにだれもが、核について全ての事実を知り、真剣に選択する必要がある。

映画「10万年…」は万人に必見である。

▶（はみ出しコラム）「自然エネルギー」「再生可能なエネルギー」志向に待った! 待った!
電力供給については、原発なしで火力だけで充分賄える。太陽光や風力といった自然エネルギーにシフトが叫ばれたが、実態を検証すると、これらの装置を造ることで、沢山のレアメタルや多くのエネルギーを消費する。国民への同関連付加金が闇議決定。勇み足政策は方向違いなり!